

公表

事業所における自己評価総括表

ムック株式会社 放課後等デイサービス わいわいプラス清新教室
児童発達支援管理責任者 南雲雅矢 事業所番号 1452602632

○事業所名	わいわいプラス清新教室			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月1日		～	令和7年 12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和7年 12月1日		～	令和7年 12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月2日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様とのコミュニケーションや連携に力を入れている。 ・児童や保護者様との関係の密度が深い ・児童一人ひとりへの特性への理解や配慮がしっかり出来ている。 ・対話や遊び、関わりを丁寧に行い信頼関係を密に築いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時やお電話（オンライン）等で保護者様と積極にお話をする機会を設けている。 ・児童本人だけでなく、保護者様自身やご家族様についてのご相談事にもしっかりと耳を傾けている。（家族支援） ・職員それぞれの持ち味をいかながら、児童一人ひとりと丁寧に関わり、遊びや対話の時間を大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別相談だけではなく、低・中・高学年ごとの小グループでの保護者様相談会（懇談会）等を設け、親睦や連携をより深めていきたい。 ・児童間のコミュニケーションにおいて、関係性が固定化（仲良しの子としか関わらない）している子もいるため、より幅広い人間関係を築き、価値観や共感力等養っていけるよう環境を作っていきたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・5領域に沿った療育内容や児童の将来的な成長を見据えた支援に努め、楽しく安心して過ごせる環境を職員皆で連携しながら作っていくことが出来ている。 ・年齢や発達に応じて日々のプログラムを工夫し、個々に合わせた環境作りを丁寧に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員ミーティングや研修の機会を十分に設け、支援の方向性の統一やビジョンの共有について密に連携を図っている。 ・児童や保護者様の意見も取り入れながら、楽しく充実した支援プログラムを提供できるよう企画に力を入れている。（お出かけ、クッキング、外食、創作活動、運動、微細活動、SST等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修や成長支援の機会を設け、職員一人ひとりの療育技量の強化を図ってきたい。 ・高学年の児童は地域社会との関わりや公共交通機関の利用、より専門的な支援プログラムの実施機会を増やし、将来に必要な生活スキルの獲得につなげていきたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や療育内容の見える化を積極的に行っている。 ・教室としての統率が取れている。 ・不測の事態への対応力が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳（LINE）やSNSでの情報発信を積極的に行っている。 ・教室としての決まりや「こんな時どうする？」の指標を明確にし、一体感を持って支援に臨めるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの更新頻度を増やす。 ・写真だけではなく動画配信等もしていきたい。 ・ミーティングや振り返りの機会をより充実させていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・平日は送迎の兼ね合い（下校時間がバラバラ）もあり、療育内容、活動のバリエーションが限定されてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低中高学年と、幅広い年齢の児童に通っていただいているため、送迎の組み合わせが難しいことがある。 	送迎専門のドライバーを雇用し、直接支援にあたる職員が教室に十分な人数常駐できると支援の幅も広がると思われる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的年齢が若い職員が多く、子育て経験や専門性のある職員が少ない。 	支援の技量の獲得について、外部での研修会や情報交換の場が少ないため、教室内部での実践、振り返りに限定されがち。	外部研修や、他教室の取り組みの見学等、自身の支援の視野と幅を広げる機会を設けられると良い。
3			